

事業所における自己評価結果(公表)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		基準に基づいた設備になっている。座席配置も感染対策上、十分な距離をとることができている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		基準に基づいた職員配置になっている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		絵カード等を使って視覚化してわかりやすく構造化している。パーティションを使い、遊びの場、学びの場を分かりやすく区切っている。水道配管の都合上段差があるが、適宜声かけ、見守りをして対応している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		消毒・清掃を適宜行い、清潔で心地よく過ごせるようにしている。サーキュレーター、加湿器、空気清浄機等の設置している。温度・湿度にも気を配っている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		個別支援計画の作成と見直しには、全職員参加により取り組んでいる。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者に事業所の評価を実施し保護者の意向を把握して業務改善を行っている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページ等で公開している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		本体施設(心身障がい福祉センター)の管理者等と定期的な意見交換を行い、改善に努めている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		当社会福祉事業団が作成している研修体系に基づき研修をすすめている。計画的に研修に参加し情報を共有する機会を確保している。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		心身障がい福祉センターによる発達検査(標準化されたもの)を踏まえてアセスメントを行っている。また、保護者のニーズを面談で把握し、支援計画書に反映させている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		心身障がい福祉センターによる発達検査(標準化されたもの)を踏まえて、アセスメントを行っている。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		児童発達支援計画は子どもの状態の把握、療育場面の様子、保護者のニーズに基づき、児童発達支援ガイドラインから必要な項目を選択し支援内容を設定している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援会議の時に具体的な支援方法を共有し、実践している。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		職員全員で共通認識を持ち、立案している。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		子どもの状態、年齢を考慮し教材を工夫している。楽しく活動し、意欲、自信、達成感が育つような活動を工夫している。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		療育は基本的には小集団の活動であるが、活動や状況によっては個別活動を組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援前日、支援開始前に必ず打合せをし、細かな役割分担を決め、確認している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		日々の支援終了後は記録をとり振り返り、反省会を行っている。反省を次への支援につなげている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		支援終了後は記録をとり、記録は児童発達支援計画作成時に参考にしている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		前期、後期(半年ごと)で見直しを行っている。
		㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		心身障がい福祉センターの心理士やケースワーカーとより配慮の必要なケース等について連携を図っている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		医療的ケアが必要な子どもは在籍していない。医療的に配慮を要する子どもはセンターの小児科医、看護師と連携をとり支援を行っている。

関係機関や保護者との連携

②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		医療的ケア児は在籍していない。
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		保護者の同意があれば、関係各所と情報共有と相互理解を図っている。 電話連携にも応じ、園生活へ支援をつなげている。
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		就学前にサポートブックを保護者と共に作成し、移行支援につなげている。 又、支援計画書ファイル(在籍期間分)を保護者に渡し、次への支援につなげられるようにしている。
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		心身障がい福祉センターがバックアップ施設となり情報提供を行っている。 専門職員と連携して助言を受け、療育に生かしている。
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		当事業所を利用している児は幼稚園や保育園との並行通園児であり障がいのないこどもと園生活を行っているため、事業所が企画しての交流は行っていない。
②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		同センター内に所属する相談支援専門員が子ども部会に参加している。
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		保護者と共通認識を持つために年3回の個別面談を行っている。 親子通園は療育内容の説明、 療育の振り返りを行っている。 単独通園はクラス懇談会を計画し、感染対策を講じながら実施した。
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		親子通園自体がペアレントトレーニングの要素を含んでいる。毎回、療育の様子を振り返りノートに記入し、気づきの機会としている。 単独通園はクラス懇談会の時に学習会を行い、療育や子育ての学びの場としている。
③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時、契約書や重要事項説明書に記載している内容を説明している。
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に基づき児童発達支援計画を作成し保護者の同意を得ている。児童発達支援ガイドラインについては児童発達支援ガイドラインの写しを渡し保護者に説明している。
③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		個別面談を年3回行っている。保護者からの相談には随時対応して必要な助言と支援を行っている。

保護者への説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		父母の会活動はないがクラス懇談会やグループごとに保護者同士のつながりができる支援を行っている。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		保護者には心配や相談がある時は職員に遠慮なく申し出るように伝えている。対応は迅速かつ適切に行っていると考える。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		定期的に園便りやカリキュラムを配布して説明を行っている。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報取り扱いマニュアルを作成して、これに添って取り扱いを行っている。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子どもに支援する際はひとり一人の子どもの状態に合ったコミュニケーションの方法を取っている。保護者に対しては面談や電話で相談を受けている。単独通園は保護者と連絡帳を通して意思疎通を図っている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		地域住民を招待する事業運営は今のところ行っていない。少なくとも、コロナ感染症の終息までは難しいと考える。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		新型コロナやインフルエンザなどの感染症に関しては、通園時の対応について保護者に文書を配布し拡大防止に努めた。 避難経路、消防計画、感染症登園基準など、マニュアルの一部を掲示し、周知できるよう努めている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的に避難訓練を行っている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		入園時、全員に「子どもの状況表」に保護者が記入し提出をお願いしている。職員とセンターの医師、看護師と確認している。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		入園時、全員に「子どもの状況表」に保護者が記入し提出をお願いしている。職員とセンターの医師、看護師と確認している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		事例集は作成していないが業務日誌に記録し職員間で共有している。事故が発生した場合は報告書を作成している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		センターが企画した研修等に参加している。本体施設(心身障がい福祉センター)内に虐待防止委員会の設置があり、管理者が委員となっている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		身体拘束を行う場合の説明は契約書に記載して保護者に説明している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。